



夕日が水田を照らし、美しい風景を見せる浜野浦の棚田。今年4月、東松浦郡玄海町

美しき棚田

玄海町 棚田の保全や、棚田のある地域の活性化を考える「第21回全国棚田（千枚田）サミット」が23、24の両日、玄海町で開かれる。全国の棚田のある自治体や保全活動に取り組む団体などから約660人が参加する。日本の棚田百選に選ばれている同町の「浜野浦の棚田」を全国に発信しつつ、美しい景観をいかに維持・管理していくか意見を交わす。

玄海町で全国サミット

テーマは「共につたえよう美しく豊かな棚田（ふるさと）を未来へつなぐ」。県内では浜野浦をはじめ6カ所が棚田百選に選ばれており、全国サミットの開催は1996年の西有田町（現有田町）、2004年の相知町（現唐津市相知町）に続き3回目となる。

初日は、地元園児や小中学生が棚田テーマソングや和太鼓演奏でオープニングを飾る。開会式と事例発表の後、05年の国際博覧会「愛・地球博」（愛知県）で会場演出の総合プロデュースを務めた造園家の涌井雅之さんが「景観からみた日本の心」と題して基調講演する。その後、三つの分科会に分かれて「棚田保全の必要性」「棚田を

あすから 保全や地域活性化を議論

県内の「棚田百選」

- 浜野浦の棚田（玄海町）
- 蕨野の棚田（唐津市相知町）
- 大浦の棚田（唐津市肥前町）
- 岳の棚田（有田町）
- 江里山の棚田（小城市）
- 西の谷の棚田（佐賀市富士町）

活かした農業経営」「地域資源を活かしたムラづくり」について、地元住民を交えて意見交換する。全体交流会では、海の幸や山の幸など玄海町の豊かな食材を使った料理が振る舞われる。

翌24日は、浜野浦の棚田を組み込んだ4つのコースで見学会をする。薬草園などの町内施設を見たり、同じく棚田百選の「大浦の棚田」（唐津市肥前町）を散策したり、名護屋城跡（同市鎮西町）や石工の里を巡って棚田の石積みとの関連性を考えるコースも用意されている。（古川浩司）



浜野浦の棚田の風景 = 4月末、東松浦郡玄海町

浜野浦棚田保全組合長

「維持、管理へ知恵を」

夕日と棚田が織りなす絶景で有名な「浜野浦の棚田」。田植えの時期には多くのカメラマンが訪れる撮影スポットとして人気を集め、2007年には静岡県県のNPO法人が選ぶ「恋人の聖地」にも認定された。その一方で、浜野浦棚田保全組合組合長の松本正弘さん（63）は「今後は棚田を維持、管理していくのが難しくなる」と語る。人々を引き付ける、美しい棚田は今、大きな課題に直面している。

「夕日と棚田が織りなす絶景で有名な「浜野浦の棚田」。田植えの時期には多くのカメラマンが訪れる撮影スポットとして人気を集め、2007年には静岡県県のNPO法人が選ぶ「恋人の聖地」にも認定された。その一方で、浜野浦棚田保全組合組合長の松本正弘さん（63）は「今後は棚田を維持、管理していくのが難しくなる」と語る。人々を引き付ける、美しい棚田は今、大きな課題に直面している。」

貝の生態通じて 自然環境を調査

唐津青翔高生が発表

○…玄海町内唯一の高校・唐津青翔高の環境部10人は、サミットで「玄海町の山・川・海」をテーマに研究発表する。町内での貝の生息調査を基に、棚田をはじめ自然環境を守ることに大切さを訴える。

環境部の生徒は4年ほど前から、自然保護に役立てるために有浦川の護岸や志礼川の干潟など町内7地域で専門家とともに貝の調査を続け、データをまとめてきた。イタボガキ、イセシラガイ、オキヒラシイノミなど絶滅危惧種も多く見つかり、地元の自然の豊かさを実感したという。



浜野浦棚田保全組合長の松本正弘さん。サミットに向けてボランティアとともに種をまいたソバが、所々白い花をつけ始めている = 玄海町の浜野浦の棚田

サミットに合わせて本年度は、浜野浦の海岸でも貝を調査し、

陸からの栄養豊富な水が海へ流れ込むからこそ貝が生息していると推測を立てた。部長の長谷川将斗さん（18）は「棚田は自然環境に大きな恩恵を与えている。棚田を保護することが貝の保護にもつながる」と話す。



どの災害時には石積み崩れが補修が必要になる。手入れが行き届かなくなった棚田周辺には雑木が生い茂り、収穫時期にはイノシシ被害にも悩まされている。

組合員は当初18人だったが、高齢化や後継者不足で現在は13人に減った。棚田サミットで、松本さんは第1分科会に参加する。「全国から集まる仲間から、知恵を借りることができれば」と話す。

浜野浦周辺などで調べた貝類の生息データを発表し、自然環境を守る大切さを訴える唐津青翔高環境部の生徒たち。玄海町